

布良崎神社

館山市布良大字西本郷三七九



漁師が伊豆から運んだ石を積み上げた石垣



神社拜殿から望む霊峰富士山

祭神

天富命天富命
建速須佐之男命
金山彦命

由緒

祭神天富命、武皇の勅を奉じて沃土
東方に求むべく、四国の忌部を率いて

こ房総に地至り、即ち此布良一角を駒ヶ崎と称す。駒ヶ崎の東方海岸に聳ゆる二峯あり、海岸近きを男神山、他を女神山と称す。男神山に祖神天太玉命「安房神社」、女神山に御后天比理刀咩命「洲宮、洲崎神社」を祀る。命はこの本郷の地を出発点として現在の安房神社に祖神天太玉命を祀り、漸次開拓の歩を勧められ北上し、特に麻穀の播殖を奨励。亦建築並びに漁業の技術をも指導され、衣食住の神として崇敬厚い社なり。

自慢の祭

毎年6月の終わりから、神社清掃、花づくりが始まり、祭り前日区民総出で、大幟立て、提灯棒取付けを行います。

祭り当日、古式に倣い神職の祓い儀の後、拜殿に於いて楽人が奏でる音色の中、巫女舞を始めとする神事が粛々と進められます。

午後より、子供達による小天皇の担ぎ出しが始まり、夕刻、須佐之男命を奉った大天皇が威勢よく宮出し、明治の画家「青木繁」も見たであろう行列「今は人も減り行列は縮小」が浜へと向かい、空が茜色に染まり、神輿が夕陽に当たり輝く頃、浜で祭典が挙行され、終わると担ぎ手達は、姉さん被りに姉さん化粧、艶やか長襦袢姿に変わり、お宮へと向かいます。担ぎ瘤が破けて血だらけになり、女の人に白粉(おしろい)を塗って貰うのも一つの自慢だったそうです。



昔名残の姉さん衣装も見られる

昔は人も多く、神田町、本郷、向と地区別に競う合うように担いでいました。

神社拜殿より、二の鳥居と、一の鳥居を重ね合わせて見ると、ちょうど真ん中に「霊峰富士山」が見えるよう創られている神社、安房を開拓した忌部族を彷彿される祭祀です。

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献・史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。



区民総出で立てられた大幟



厳肅な祭典が行われる



威勢のいい神輿渡御



その昔の布良崎神社祭礼の姿を描いた「布良崎神社御浜出行列の図」(布良崎神社所蔵 近藤博画)